



プレスリリース

2024年1月26日

ヴァレオジャパン、在日フランス商工会議所よりスペシャル・イノベーション賞を受賞

株式会社ヴァレオジャパンは、METAx(超小型EV技術研究組合)が開発したマイクロ・ユーティリティ・ヴィークル(MUV)に搭載されたフル推進システム「ヴァレオeAccess」でスペシャル・イノベーション賞を受賞しました。在日フランス商工会議所が1月25日に発表したフレンチビジネス大賞2024において、審査員より全候補者の中で最もイノベティブであるという評価をいただき、この受賞に至りました。

電動化は、ロードモビリティのカーボンフットプリントを削減するための鍵となります。ヴァレオは、高電圧電動パワートレインに加えて、二輪車、三輪車と小型車両向けの48V低電圧ソリューションを提供しています。この技術を活用して、METAxは、ヴァレオの定評あるフル推進システム「ヴァレオeAccess」とDC-DCコンバータを搭載したマイクロ・ユーティリティ・ヴィークル(MUV)を開発しました。

MUVは二輪車より大きく、軽自動車より小さいサイズで、小規模な配送を想定しています。四輪なのでバイクより安心で、軽自動車より二回りも小さく小回りが利く、気軽に運用できるEV時代の新しい選択肢です。「クロスケ」と名付けられたMUVのプロトタイプは、JAPAN MOBILITY SHOW 2023のヴァレオブースで披露され、注目を集めました。「クロスケ」は、日本のモビリティでの48V電動パワートレインの新たな道を拓きます。METAxは、2025年後半の予約開始を目指して開発を進めています。

ヴァレオeAccessは、都市部の軽量モビリティ向けのスケラブルで手頃なソリューションであり、2021 オートモーティブニュースPACEアワードを受賞しました。すでにフランスではシトロエンAMIIに搭載されており、インドや台湾でも販売されています。

ヴァレオジャパン代表取締役社長のアリ・オードバディは、「小型モビリティのカーボンフットプリント削減に向けたフランスのテックサプライヤーであるヴァレオと先進的な技術研究組合であるMETAxの取り組みがこの賞で評価されたことを光栄に思います」と語りました。

ヴァレオカラーの「クロスケ」は、1月24日から26日まで東京ビッグサイトで開催されているオートモーティブワールド2024においてMETAx会員企業である都筑製作所のブースに展示されています。

テクノロジー企業であり、すべての自動車メーカーとニューモビリティプレーヤーのパートナーであるヴァレオは、モビリティをよりクリーンで、より安全で、よりスマートにするために、たゆまずイノベーションを行っています。ヴァレオは、電動化の加速、ADASの加速、インテリア・エクステリアの再創出とライティング・エブリウェアにおいて、技術的・工業的なリーダーです。モビリティの変革に不可欠なこれらの4分野は、今後数年間のグループの成長を牽引しています。数字で見るヴァレオ:2022年、グループの売上は200億ユーロに達しました。2022年12月31日時点で109,900人の従業員を擁し、29カ国で183カ所の工場、21カ所の研究センター、44カ所の開発センター、18カ所の物流拠点を構えています。ヴァレオはパリ証券取引所に上場しています。

報道関係者お問合せ先:
株式会社ヴァレオジャパン
Tel: 03-5465-5744
広報担当: 090-6655-6429 (石井)
Email: yoko.ishii@valeo.com
WEBサイト: <http://www.valeo.co.jp>